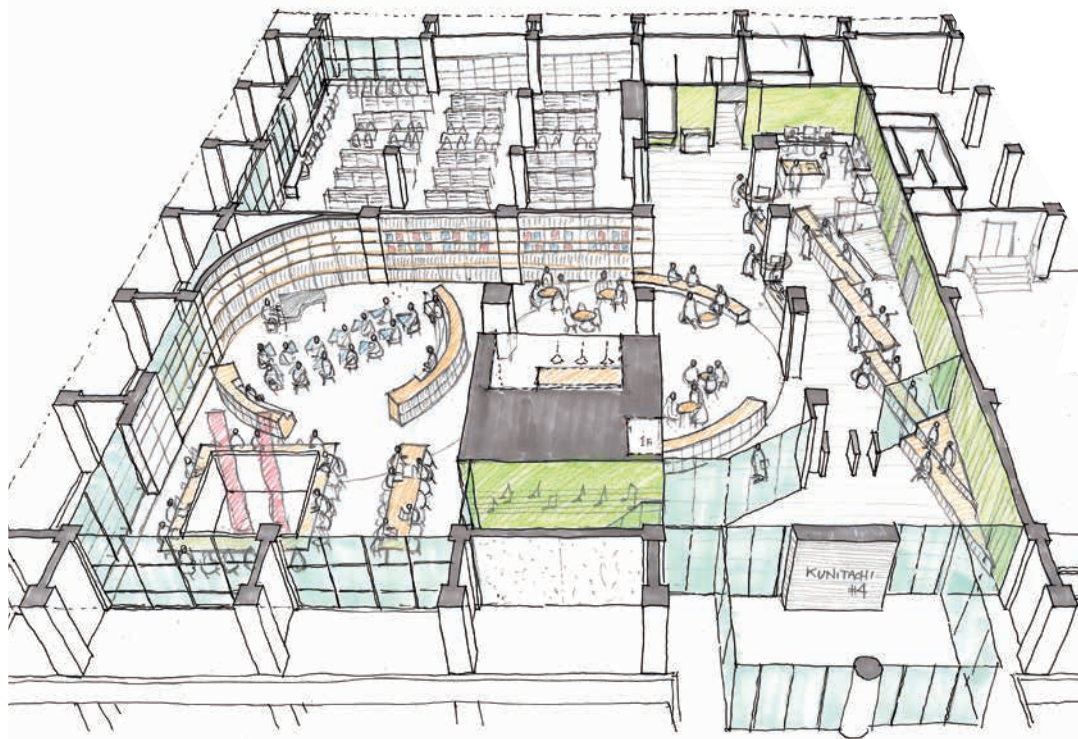


図書館の う・こ・き …… 耐震改修工事報告③

工事真最中の図書館。みなさまには長期間にわたりご不便をおかけしています。今回は、この工事の先に待っている新しい図書館の姿をご紹介します。これは、工事がすべて終了した後の図書館メインフロア(現2階)の予想図です(現段階では、2017年1月から使用予定)。



大きく変わるポイントは、次の3つです。

① 開放的で居心地のいい空間となります!

耐震工事にあわせて、図書館内のレイアウトや内装・設備を一新します。新図書館の各フロアは、できる限り壁を少なくし、緑と光を取り込んだ空間づくりを行います。

② 手に取れる本を増やします!

新図書館では、利用者用のスペースに棚を増やし、OPACで探さなくても手に取れる本を増やします(図書館用語でいうと、「開架資料」を増やします!ということになります)。気軽に本を手に取り、興味を拓げる。そんなことができる図書館にしたいと考えています。

※ただし楽譜は紛失防止のため、今までどおり書庫での管理が中心になります。

館長室へようこそ⑱

夏の思い出

図書館長 古川 聡

夏になると思い出す。大学院生の頃、先輩から誘われて北アルプスの雲ノ平を目指した時のことだ。雲ノ平は北アルプスの中で最も奥に位置し、到達までに二日以上要する秘境の地で、ずっと行きたかったことから即座に賛成した。休みに入る前から毎日のように天気予報をチェックするが、なかなか梅雨が明けない。七月の末、近いうちに明けらるだろうと安易に考えて出発し、富山側から入山した。途中の薬師岳近くにテントを張るものの、雨は一向に止まない。ラジオを聞くと、明日はさらに大雨になるという。仕方なく、先輩と二人で小さなテントで時を過ごす。だが、その翌日も大雨で、またもテントの中で停滞。雨の音をこれほどまでじつと聞いたのは、これが最初で最後である。雲ノ平は、テント場からいったん下って黒部川を渡り、また登り返した頂上に広がる高原状の場所である。この大雨では黒部川を渡るのは難しい。そこで予定を変更し、雨の中を黒部五郎岳から三俣蓮華岳、そして槍ヶ岳を目指した。黒部五郎岳の頂上直下には、氷河に削り取られた地形に多くの池塘が点在する風景が広がる。その先に槍ヶ岳の穂先が小さく見える。あそこまで歩かなければならない。夏休みはまとまった時間が取れるので、毎年どこかの山に登っていた。登りはきつく家で寝ていればよかったと思うものの、頂上に着けば安堵と達成感が広がり、目前の雄大な景色に心を奪われる。こうして鋭気を養い、大学に戻ってから実験に励んだものである。大学生には十分な時間がある。その時間を有効に使ってこそその学生時代であろう。旅行に行くのも、積んでおいた本を読むのもいい。ふだんできなかったことをここぞとばかりにやれるのが大学生の夏休みである。時間をどう使うかはあなた次第だ。なお、その年に断念した雲ノ平は、二年後に後輩たちと踏破した。

耐震改修工事報告③ ……つづき

③ さまざまな学びのスタイルに対応したスペースを用意します！

図書館を利用する目的はさまざまです。新図書館ではフロアごとにゾーニングを行い、一人集中して勉強する人も、グループで演奏の相談をする人たちも、図書館の中で最適な場所が見つけられるよう、スペースを用意します。

2階：集いのフロア。開架図書を増やし、グループ学習（学修）やイベント等にも対応できるスペースにします。

3階：集中できる静かなフロア。音楽の専門書、データベースやオンラインジャーナルにもアクセスできます。

4階：音大ならではのアクティブ・ラーニングを可能にする視聴覚フロア。グループ視聴室、ガイダンスに活用できる多目的室などを設置します。

